育友会主催「就職懇談会」

3年次生ご父母、学生ら233人が出席

育友会主催の就職懇談会が6月26日、神田キャンパスで開かれた。本格的な就職活動を目前に控えた3年次生のご父母や学生233人が出席。本学の就職支援体制や、公務員試験対策の説明、また、企業側が求める学生像や、就職活動にあたってご父母の心構えなどについての講演が行われ、就職内定者によるパネルディスカッションが行われ、熱心に聴き入っていた。

早川和仁会長

▲「専修大学の就職活動支援体制について」をテーマに講演する坂田芳郎就職部長

超氷河期の中 高い水準を確保

最新情報を知り 学生と向き合う

はじめに早川和仁育友会長が「私たち父母の世代とは、大きくさま変わりした現在の就職活動を把握することで、子どもたちとしっかり向き合えるのではないでしょうか。この会を通して就職活動の最新情報を知り、活動中の子どもたちとの接し方を考えていただく機会になれば幸いです」とあいさつした。

坂田芳郎就職部長は「専修大学の就職活動支援体制について」をテーマに講演。2010年度の本学学生の活動記録や主要企業の採用試験データなどの豊富な資料を元に、活動スケジュールや準備の仕方、支援の内容などを説明した。「超氷河期と言われる昨年の就職状況ですが、その中でも本学の就職率は90・2％という非常に高い水準となった。今後も充実した支援プログラムや個別相談などていねいな対応をしていきたい」と述べた。

エクステンションセンターからの「公務員試験の概要」では、一般企業と同様に自己分析や自己アピールの力が必要とされ、人物試験が多様化、高得点化している傾向について説明。今年度、本学から2人の国家1種合格者が出たことにも触れた。

▲ 講演する大島氏

企業はチャレンジ精神旺盛な人材を求める

続いて、㈱みずほフィナンシャルグループ人事部採用チーム次長の大島智視さんが「目指してほしい人物像ならびにご父母にお願いしたいこと」と題して講演。

同社の採用スケジュール紹介とともに、学生たちに「自分が何をすべきかを主体的に考え、行動し、その結果を検証し、より良い行動に移せる人を目指してほしい。失敗を恐れないチャレンジ精神旺盛な人材を求めています」と述べた。ご父母に対しては「体調管理、精神的アシストが大切。お子さんがアドバイスを必要としている時以外は口を出さず、見守っていてあげてください」と呼びかけた。

▲ 内定学生によるパネルディスカッション

最後に内定学生によるパネルディスカッションが行われ、山口恭兵さん（経済4）、佐藤杏奈さん（法4）、青木良介さん（商4）、高田有梨さん（文4）の4人が、活動の流れ、エントリーシートの書き方、面接でのエピソードなどを語った。「面接でアピールしたことは？」というコーディネーターの質問に、佐藤さんは「イベントサークルで代表を務めた経験から、組織ではみんなが気持ちよく動ける環境をつくることが大事だということ。面接官も同じ考えだった」と語った。

今回の就活では震災の影響もあり、山口さんは「3月11日からほとんどの企業で選考がストップしてしまい、モチベーションを維持するのが大変でしたが、仲間と集まって意見交換などして乗り越えました」と話した。

▲ 学生も活発に質問

会場からはさまざまな質問が寄せられた。「外国語はどの程度必要か？」という問いに、「企業の中には二次面接から英語という会社もあるが、私が採用された会社は、選考過程で英語力は問わなかった」（青木さん）。「人と違う経験をした方が就職活動では有利なのか？」という質問には「人と違うことをしたから受かるのではなく、やっていることを突き詰めて考えた人が受かっていると感じる。今やっていることを追求することが大事」（高田さん）といった体験に基づく答えが提示された。

4年次生対象に「学内企業説明会」

218社が協力

4年次生を対象とした「学内企業説明会」が6月29日から7月1日までの3日間、生田キャンパスで行われた。

東日本大震災の影響を受け、例年より採用スケジュールが遅れた企業もあり、3日間で218社が協力。9号館に参集した565人（延べ）の学生たちは就職課員からのアドバイスを受けた後、希望のブースを回り、人事担当者から詳細説明を聞き、真剣な表情でメモを取っていた。

国際経営者協会（IMA）寄付講座

経営者らに学ぶ「ベンチャーマインド」

経営学部の国際経営者協会（IMA）寄付講座が生田キャンパスで開講されている（8／4までの毎週木曜日、全14回）。池本正純教授がコーディネート役を務め、IMA会員の経営者らが講演を行う。次世代を担う人材に必要とされる幅広い価値観を身につけることを目的にしている。

6月30日は、オーナーシェフの松嶋啓介氏が「失敗をしよう！　世界はボクの遊び場だ。世界中と心をつなぐコミュニケーション～」をテーマに講演した＝写真。

松嶋氏は20歳で単身渡仏し、フランス各地のレストランで修業を重ねたのち25歳でニースに自身のレストランをオープン。日本人最年少でミシュラン一つ星を獲得し、現在、フランス・ニースと東京の2つのレストランのオーナーシェフとして活躍中である。

講演では「夢に向かって行動している間は失敗も財産になる。自分の力を信じ、夢を極めようという姿勢を持ち続けることが大切。皆さんの活躍の場は世界中にあります」と呼びかけ、F1ドライバー佐藤琢磨氏やサッカープレーヤー本田圭佑氏とのエピソードも披露した。

同講座では、ほかにIMA会長の淡輪敬三氏、本学OBで㈱サティスファクトリーインターナショナル代表取締役社長の小松武司氏、ヴィセラジャパン㈱代表取締役の武藤興子氏、㈱IFSネット代表取締役社長の渡邉幸義氏のほか、奈良少年刑務所教育専門官の小西好彦氏、法相宗大本山薬師寺執事・水雲山潮音寺副住職の大谷徹奘氏を講師に迎え、さまざまな分野からベンチャーマインドを学んだ。

「最初の1分が勝負ですよ」

落語家が就職活動支援講座

「相手の目を見て」…

就職活動に励む学生にコミュニケーション能力を身につけてもらおうと、落語家の三遊亭楽麻呂師匠らによる「出前講座」が5月23日、就職部主催のマスコミ講座（講師・高田城さん＝㈱表現技術開発センター代表取締役）で行われた。

▲ 学生に語りかける三遊亭楽麻呂さん（右）と三遊亭きつつきさん（左）

高座や海外イベントが豊富な楽麻呂さんは、就職活動に汗を流す学生たちを落語家の立場から支援しようと「円楽一門会」の仲間である三遊亭楽生さん、二つ目・三遊亭きつつきさんとともに就活コミュ力（※）「出世噺・就活落語家三人衆」を発足。この日は初の講座となった。

和服姿で登場した楽麻呂さんは、5代目・円楽師匠に弟子入りしたころの苦労話や失敗談を語り、爆笑を誘った。

「最初の1分で『この人間は面白い』と印象づけること」「目線は大事。相手の目を見て話せば必ず思いが伝わる」など、高座における人を引きつけるテクニックからくる面接でのポイントは、20人の受講生たちを引きつけた。そのあと新作落語を披露した。

受講生の一人、三留麻里さん（法3）は「噺家さんの体験は、就職活動だけでなく私たちの日常生活に生かせる話ばかり。面白くてためになった」と話す。同講座は、翌日、生田キャンパスでも行われた。

※コミュ力＝コミュニケーション能力の意